

**[成果情報名]施設栽培におけるオキナワ台モモ「日川白鳳」のシアナミド液剤散布による開花および収穫の前進化**

**[要約]**施設栽培のオキナワ台モモ「日川白鳳」において、ビニル被覆直後にシアナミド液剤 20 倍液を散布することによって開花が早まり、初期の収穫果率も高くなる。

**[キーワード]** ハウスモモ、シアナミド液剤、開花

**[担当]**農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ・落葉果樹研究室

**[連絡先]**（代表）0957-55-8740

**[区分]**果樹

**[分類]**指導

---

**[背景・ねらい]**

モモの施設栽培では、熟期が遅れることによって収穫期が梅雨と重なり、品質・青果率の低下等が懸念され、農家の所得安定を阻害する要因の1つとなっている。そこで、萌芽促進剤であるシアナミド液剤（商品名 CX-10）を使用することによる開花の促進および出荷の前進化について検討を行う。

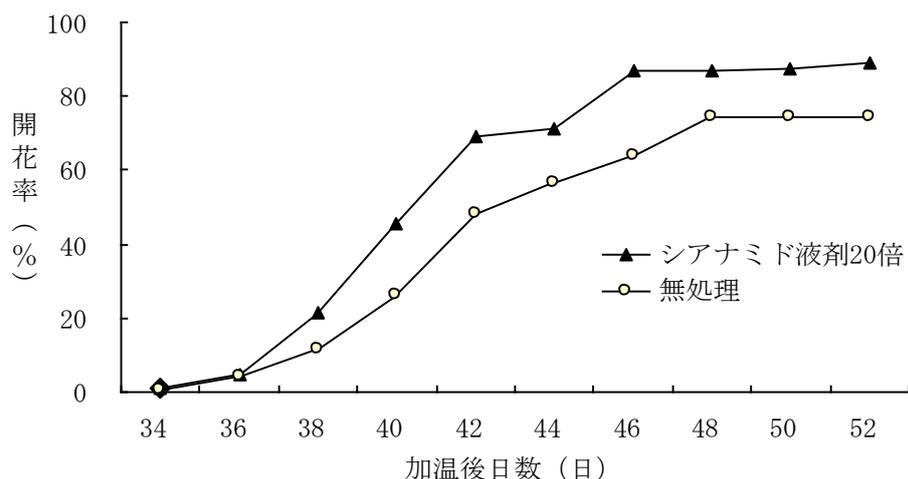
**[成果の内容・特徴]**

1. シアナミド液剤 20 倍液をビニル被覆直後に散布することにより開花は5日程度早くなり、開花率も高まる（図1）。
2. シアナミド液剤の散布により初期の収穫果率が高くなり、収穫期が早くなる（図2）。
3. 結実率および果実品質に差は認められない（表1）。なお、散布による薬害の発生は見られない。

**[成果の活用面・留意点]**

CX-10は有効成分としてシアナミドを10%含む製剤で、2009年10月モモに登録されている。

[具体的データ]



2010年1月14日(7.2℃以下 626時間)にビニル被覆・加温を開始し、1月18日に散布。

図1 シアナミド液剤散布と開花率

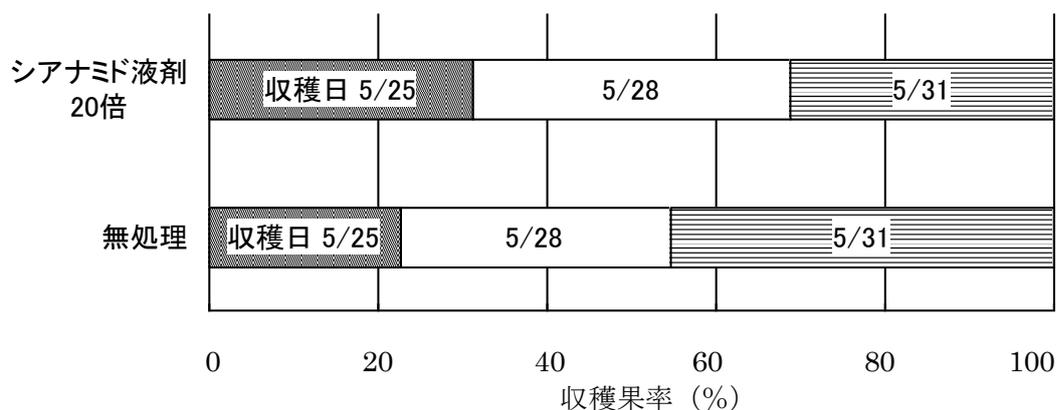


図2 シアナミド液剤散布と収穫果率

表1 シアナミド液剤散布と結実率および果実品質

処理区	結実率 (%)	果実重 (g)	着色歩合 <sup>z</sup>	糖度 (Brix)	pH
シアナミド液剤 20倍	33.9	232.6	6.0	9.7	3.54
無処理	36.4	226.1	6.1	9.7	3.68
有意差 <sup>y</sup>	—	n.s.	—	n.s.	n.s.

<sup>z</sup> 果実全面に着色した場合を10の指数で表示

<sup>y</sup> t検定により n.s.は有意差無し

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した落葉果樹の生育調整技術と低コスト施設栽培の開発

予算区分：県単

研究期間：2007～2011年度

研究担当者：石本 慶一郎、田中 実、中里 一郎、松浦 正